

# おっばいだよ

47号

新潟市民病院母乳育児推進委員会 平成29年11月

今シーズンは、「コウノドリ2」がテレビで放送され、世間では話題になっていますね！コウノドリは産科病棟のスタッフの間でも話題になっており、病棟内での視聴率はとても高いです。今月のおっばいだよは、ドラマ「コウノドリ2」の第2話でも取り上げられていた、子宮頸がんについてお話ししたいと思います。

## 子宮頸がん

### 子宮頸がんとは？

子宮の入り口部分(頸部)にできるがんのことを言います。子宮頸がんが進行すると、生理に関係ない出血がある、茶色のおりものが増える、下腹部や腰が痛むといった症状が見られる場合がありますが、初期の段階では、ほとんどのケースで自覚症状はありません。

若い女性(20~39歳)がかかる「がん」の中では乳がんに次いで多く、女性の100人に1人が生涯のいずれかの時点で、子宮頸がんにかかると言われていています。日本では年間9,000人近くの方が子宮頸がんになり、2,700人もの方が亡くなっています。

### 子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんの原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染です。主に性交渉によって感染します。性活動を行う女性の80%以上が、50歳までに感染を経験すると言われていています。HPVは細かく分けると、150種類ほどあり、子宮頸がんの原因になる可能性のある「高リスク型」と皮膚や粘膜にできるイボの原因となる「低リスク型」があります。高リスク型のうち、「16型」、「18型」が子宮頸がんの原因の約60~70%を占めています。

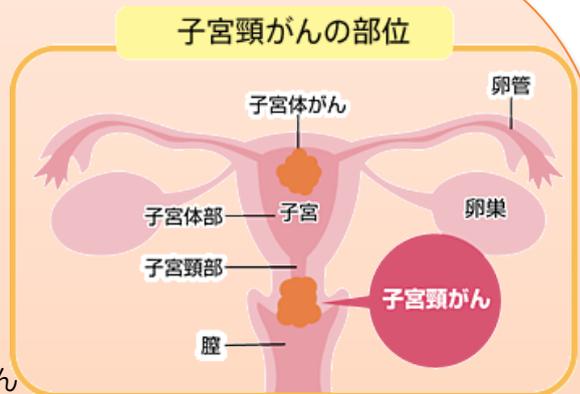
高リスク型のHPVに感染してもウイルスは自然に排出されることがほとんどです。しかし長い間感染が続くと、細胞が少しずつがん細胞へと変化していくことがあります。



### 子宮頸がんになるとどんなリスクがあるの？

子宮頸がんになると、初期のがんであれば、子宮を残して手術する方法がありますが、子宮の出口を切除することになるので、流産・早産のリスクが高まります。もしがんが進行してしまっていた場合は、子宮をとる必要があるため、妊娠・出産ができなくなります。

「コウノドリ」のお話の中で、妊娠初期で子宮頸がんが発覚した妊婦さんのお話がありました。赤ちゃんに後遺症が残るリスクが高くても、お母さんのがん治療を優先して早い週数で赤ちゃんを産むのか、もしくは妊娠をぎりぎりまで継続して赤ちゃんの成長を待つのか、医師やご家族が話し合っていましたね。



## 子宮頸がんの予防方法は？



### 子宮頸がんワクチン



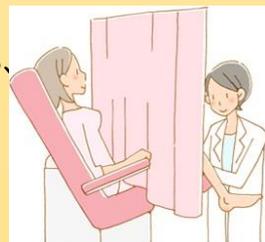
子宮頸がんは、がんの中で、唯一ワクチン接種による予防が可能です。ワクチンには、HPVの成分が含まれているため、接種することで免疫を作ることができ、HPVの感染を防ぐことができます。ワクチンでは、子宮頸がんを引き起こすHPVのうち、子宮頸がんの原因の60～70%を占める、16型、18型の感染を予防します（尖圭コンジローマの原因ウイルス2つに対するものも含めた4つの型を予防するワクチン、その他のがんの原因となる9つの型を予防するワクチンもあります）。ワクチン接種は、十分な予防効果を得るために3回行います。子宮頸がんワクチンは、定期接種に含まれています。定期接種の対象年齢である、小学校6年生から高校1年生までの女子であれば、3回のワクチン接種を無料で受けることができます。（通常は3回のワクチン接種で約5万円かかります。）それ以上の年齢や男性でも、全額自己負担となりますが、ワクチン接種を受けることができます。

ワクチン接種に関して、近年副反応が話題になっていました。子宮頸がんワクチンの主な副反応としては、接種した部位の痛み・赤み・腫れ（ワクチンによって免疫が作られる時の体の反応に伴うもので、ほとんどが数日で消失します）、注射の痛み・恐怖・興奮などをきっかけとした失神があります。重い副反応として、ギラン・バレー症候群（両手・足の力の入りにくさなどを症状とする末梢神経の病気）、急性散在性脳脊髄炎（頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気）などが現れることがありますが、頻度は約430万接種に1回とまれです。

### 子宮頸がん検診

ワクチンでは感染を予防できない高リスク型のHPVもありますし、子宮頸がんの初期段階では自覚症状がほとんどないので、ワクチンと合わせて子宮頸がん検診を受け、子宮頸がんを早期発見することも必要です。20歳以上の女性は、2年に1回の頻度で子宮頸がん検診を受けることが推奨されています。検診では、子宮頸部の細胞を採取して、細胞に何らかの異常がないか検査する「子宮頸部細胞診」が行われています。受診者の約1%に精密検査が必要となり、精密検査が必要な受診者の中でがんが発見されるのは、約10%弱と非常に高率です。子宮頸がんの60%以上は、粘膜の表面のごく一部だけにとどまる上皮内がんなど、ごく早期のがんで、その大半は子宮を残した治療が可能です。

新潟市では、20歳の方は、子宮頸がん検診を無料で受けることができます。20歳以降は、偶数年齢の女性は、自己負担額は1000円となります。（本来、個人的に受診し検診を受けると、最大3400円程度かかります。）ハガキが届いたら、積極的に検診を受けに行きましょう。



漫画『コウノドリ』で鴻鳥先生は、子宮頸がんについて、こう話していました。「1年前に検診を受けていれば結果はもっと違っていただかもしれない…。欧米では20歳から69歳までの子宮頸がんの検診率は80%近いんだ。日本はやっと40%ってところだよ。20代の検診率となると20%ぐらいだろうね。まだ低いよね…。」「今は早期に発見できる…。それを確実に治療すれば…。子宮頸がんはこわくない。」

